

うぶんちゅ!
まがじん
ざっぱ〜ん♪



vol.2

うぶんちゅ！ まがじんざっぱ〜ん♪
vol.2 体験版

うぶんちゅ！ まがじんざっぱ〜ん♪ の仲間たち 著

2014-11-15 版 うぶんちゅ！ まがじんざっぱ〜ん♪ 編集部 発行

目次

Chap. 1	プチ帰ってきた『行っとけ！ Ubuntu 道場！』特別編 第二回	1
Chap. 2	あのプロダクトは今！？	9
2.1	すべての原点「Alternate インストールイメージ」	9
2.2	Live CD 前夜	10
2.3	「もう一つの」インストーラーとしての再出奔	13
2.4	CD 容量の限界	15
2.5	その後のリリースイメージ	17
Chap. 3	Ubuntu を「未来をうかがう」道具にする	18
3.1	未来を予測するのは難しい？	18
3.2	西洋占星術	18
3.2.1	Astrolog	19
3.2.2	OpenAstro.org	20
3.2.3	Maitreya	21
	イマドキの占い師はどんな道具を使う？	22
3.3	タロット占い	22
3.3.1	QTarot	22
	タロットカードの著作権	24
3.4	実占例	25
3.4.1	Ubuntu の出生図	25
3.4.2	二分類、三区分、四要素	27
3.4.3	ハウス	27
3.4.4	アスペクト	27
3.5	今後の展望と課題	28
Chap. 4	普通の社会人が【録画環境】を（もう少し）やってみた	29
4.1	前回の kazken3！	29
4.2	最近の状況	29
4.3	今回のお題	30
4.4	物理的な前準備	30
4.5	エンコード環境の構築	30

4.5.1	ffmpeg の導入	30
4.5.2	エンコード時間の計測とオプションの決定	31
4.5.3	エンコードスクリプトの作成	33
4.6	Nexus5 への移動	34
4.6.1	jmtvfs の導入	35
4.6.2	Nexus5 を自動マウント	37
4.6.3	マウント～ファイル転送の自動化	37
4.7	おわりに	39
Chap. 5	Ubuntu 10 歳、CUPS 15 歳	40
5.1	CUPS って?	40
5.2	記念すべき始まり	41
5.3	CUPS 1.2 リリース	41
5.4	system-config-printer 登場	42
5.5	CUPS 1.3 の時代	43
5.6	CUPS、Apple プロダクトになる	44
5.7	激動の時代へ	46
5.8	現代、そしてこれから	47
Chap. 6	Ubuntu 14.04/14.10 でも ATOK X 3 を動かす	49
6.1	Ubuntu と ATOK X3	49
6.2	Ubuntu MATE	49
6.3	ATOK X3 のインストール	50
6.4	ATOK X3 の設定	51
Chap. 7	Ubuntu Studio フレーバー 7 周年	52
7.1	そもそも Ubuntu のフレーバーって何よ?	52
7.2	Ubuntu Studio のコンセプト	52
7.3	Ubuntu Studio の 7 年間	53
7.4	Ubuntu Studio とカーネル	58
7.5	Ubuntu Studio コミュニティ	59
Chap. 8	Ubuntu で Blink(1) mk2 を動かしてみる	60
8.1	謎デバイス「Blink(1) mk2」との出会い	60
8.2	開封の儀	61
8.3	Ubuntu で Blink(1) mk2 を試す	62
8.3.1	Ubuntu に接続	62
8.3.2	udev の設定とツールのビルド	63
8.4	どこで買えばいいの?	64
8.5	おわりに	64
Chap. 9	Ubuntu 8.04 はこんなだった	65

9.1	Ubuntu 概要	65
9.1.1	Ubuntu とは	65
9.1.2	Ubuntu の歴史	66
9.1.3	Canonical Ltd. とは	66
9.1.4	Ubuntu Japanese Team とは	67
9.2	Ubuntu の機能	67
9.2.1	デスクトップ効果	67
9.2.2	印刷 (system-config-printer)	67
9.2.3	(アプリケーションの) 追加と削除	68
9.2.4	アップデート・マネージャ	68
9.2.5	メディア・コーデックの簡単インストール	68
9.2.6	デスクトップ検索	68
9.2.7	画面の解像度	69
9.2.8	言語サポート	69
9.2.9	Launchpad	69
9.2.10	ヘルプ	69
9.2.11	日本語ローカライズド Desktop CD の特徴	70
9.2.12	その他	70
9.3	Ubuntu 8.04 の新機能	71
9.3.1	Wubi	71
9.3.2	Firefox 3.0	72
9.3.3	jockey	72
9.3.4	PulseAudio	73
9.3.5	Virtual Machine Manager	73
9.3.6	Vintage	73
9.3.7	OpenJDK	74
9.3.8	Brasero	74
9.3.9	xorg-driver-fglrx	74
Chap. 10	ゲストページ	77
10.1	人と Ubuntu と私	77
10.2	第二弾おめでとうございます	78
10.2.1	Ubuntu との出会い	78
10.2.2	評価ボードに Ubuntu インストールしてみる	79
	BBB	81
	HummingBoard	81
	Edison	82
10.3	私が愛してきた OS 達	82
10.3.1	Ubuntu 以前の OS 溺愛遍歴	83
10.3.2	Ubuntu との出会い	83

10.3.3	ソフトウェアは建前ではなくホンネで選びたい	83
10.4	普通の大学教員が【Ubuntu】やってみた。	84
10.4.1	原稿	84
10.4.2	講義・講演	84
10.4.3	クラウドストレージ	85
10.4.4	統計処理	85
10.4.5	科研費応募書類	86
10.4.6	Windows が必要な場合は	86
	終わりに	87
	あとがき	87
	奥付	88

Chap. 1

プチ帰ってきた 『行っ↑け！ Ubuntu 道場！』 特別編 第二回

プチ 帰ってきた

行っ↑け！ Ubuntu^{みちば}道場！ 特別編

hito

hito：はいはい、今回も収録ははじめますよー。はじめないと予定通りに原稿がそろわないからね？

松屋仮面：はい、今回の道場さんは？

ミズノ：軽いノート PC が欲しいとか言うよな。腕力鍛えろよ。Emacs で SKK 使ってる↑ Ctrl とか Shift 多用するけど、小指を鍛えて乗り切るだろ？ それと同じだよ。

chonan：おなかすいた！

さかもっちー：この速さなら言える！ 市井の普通の人↑なんでこんな場所にいるぐにゅう！

小林：話は聞かせてもらった！ 人類は滅亡する！

瀬尾浩史：……やばいペン。なぜ開始時点からいきなりカオスなのペン……。

松屋仮面：まともな人、おらんかった。

hito：一年ぶりなのにテンション変わってないですね、このひとたち……。

あわしろいくや：道場を書いてもらおうと思って呼び出しかけたら大変なことになったんですな。ガクブルしてるんですな。

なるおが：……おや、いつの間にか呼び出しが。

やまね：今回も関係者が偶然ここに来て収録しています。オリジナルの道場とは実際無関係。い

いね?

なるおが: アッハイ。

あわしろいくや: アッハイ。

hito: なんかニンジャってる人がいるし!

chonan: 収録の結果のなんかが危ないのでございますね。

やまね: ダマラッシャー!

ミズノ: どうしよう。やまねさんが忍殺語でしか喋らなくなってる……。

やまね: ヨロコンデー!

瀬尾浩史: どうすればいいペン。ここはどこ? 私は誰ペン?

あわしろいくや: ここはどこ? 私は一般人のいくや。

hito: 「わたしはイッパンジン あわしろいくや コンゴトモヨロシク……」みたいな。……たぶん上位種族をありったけ組み合わせると作れるんじゃないかな、イッパンジン。

松屋仮面: この速さなら言える! 牛めしは飲み物!

hito: あれ、松屋仮面さんの語尾が。

松屋仮面: 牛めし語尾、いちどやると三ヶ月ぐらい取れなくなるので……。今回は普通の語尾で話を進めたいと思います。

ミズノ: 社会生活に支障がありすぎますからね。

さかもっちー: そうぐにゆう。たまにぐにゆう語尾に乗っ取られるぐにゆう。

瀬尾浩史: もうダメだペン……本題に入れないペン……。

編集 S: (無言でなにかを差し出す)

瀬尾浩史: そこで陰鬱な表情でハリセン渡されても困りますって!

hito: セオペンせんせー、語尾。語尾。

瀬尾浩史: はっ!? 收拾のつかなさの中の人が出ていたペン!

やまね: 中の人などいない。いいね?

chonan: これで大丈夫なんですか……。

やまね: 親愛なる読者のみなさん、ごあんしんください。

hito: ということで、今回も Ubuntu 道場(読み: Ubuntu みちば)です。今回のテーマは「Ubuntu を今使うならこれ~最近こんなの買ったり欲しかったりする~」です。

さかもっちー: 無理矢理まとめたぐにゆう。

ミズノ: 北海道のホテルの部屋からお届けします。イカもいくらもうまかったです。

なるおが: うらやましいです。

松屋仮面: 本題とまったく関係ない!

あわしろいくや: イカは夏に食うべきじゃなイカ?

ミズノ: 夏の函館とか、おひとりさまはホテル取れんのじゃ……。

あわしろいくや: 世間はぼっちに冷たいですからね……。

ミズノ: それに、イカ釣り漁船を見るのは冬が最高で牛めし。雪の空に幻想的に立ち上るイカ釣り漁船の光柱とかロマンチックで牛めし。

hito : うん、もうこの人たち放置しよう。

瀬尾浩史 : それがいいペン!

小林 : なお、もうひとつの収録サブタイトルは「~同人誌だから大人の事情に配慮しなくてよい~」です。

編集 **S** : まるで過去の道場は大人の事情に配慮していたかのような物言い……。

あわしろいくや : 欲しいもの……。6TB の HDD がたくさん欲しいですな。切実に。

ミズノ : 「たくさん」で……。

hito : そんないくやさんに、世界でもっともデータの海に苦しんでいる組織のひとつ、CERN のストレージ担当者の名言をお届けします。「データは空き容量があればあっただけ増えていく。ていうか 50PB が一年で食われるのはなぜだ。もちろんストレージの神たるあわしろいくや氏のお持ちのストレージに比べれば大したことないが」。

ミズノ : CERN すげえ。

瀬尾浩史 : むしろいくやさんがすごいペン。

なるおが : 待って! 後半待って! 前半はどこかで見たような気がするけど後半はちょっと待って! ていうかみんな、受け入れないで!

chonan : さすが広報担当者がダン・ブラウンとか SERN についてコメントでさらっと触れる組織だけありますね……。

hito : あそこの広報担当者、しばしば知性の無駄遣いをしますからね……。

瀬尾浩史 : いや待つペン。いくらなんでもストレージゴッドについては知られてないハズペン。

hito : もちろんいくやさん云々のところは捏造ですよ!

やまね : とはいえ、6TB HDD も Linux から普通に使えるからねえ。

あわしろいくや : GPT にすれば普通に見えますな。

松屋仮面 : いい時代ですよねえ。

編集 **S** : なんかみんなが普通に GPT について語っているのだ……。

あわしろいくや : HDD、どこまで増えていくんでしょうなあ。

hito : 一応来年にはヘリウムで 10TB、ヘリウム使っていないやつで 7~8TB とかいう話ですね。

ミズノ : ヘリウムってあれ、どういう仕組みなんです?

hito : HDD を密閉して、その中にヘリウムを詰めた状態にすると空気に比べて気体としての抵抗が小さくなるので全体的に軽量化できます、みたいなテクノロジーです。必要なら細かいことを説明しますが、名詞はおおむね英語になります。よろし?

ミズノ : よし、仕組みを理解できないことを理解した! ユーザーとしては HDD を GPT でフォーマットすればいいだけだ!

編集 **S** : なんかみんなが普通に GPT について語っているのだ…… (二度目)。

chonan : Ubuntu だと parted (gparted) を起動して、フォーマット形式を選べば OK でございますね。

編集 **S** : なんかみんなが普通に GPT について語っているのだ…… (三度目)。

ミズノ : だよねえ……。って待って、GPT についての説明は! ねえ説明はしないの!?! 説明しないとなんかハリセンを持った編集者らしき人影が「クロス」みたいなオーラを放ちながら突然襲いかかってきそうなんだけど!

やまね : GPT……それは……。

Chap. 2

あのプロダクトは今！？

柴田亮也

プロジェクトも 10 年以上経過すると、さまざまな事情でなくなってしまったプロダクトが増えていきます。時代が進むことで不要となり廃止になったもの、大々的にアナウンスされたものの誰も使われずに消えていったもの、そもそも存在すら知られなかったものなど……。

ここでは Ubuntu プロジェクトの歴史の中で、その役目を終えたプロダクトを振り返ってみましょう。

2.1 すべての原点「Alternate インストールイメージ」

Ubuntu のデスクトップ版のインストール用 ISO イメージは Live イメージになっており、そのマシン上でデスクトップ環境の動作を確認してから、そのままグラフィカルなインストーラーを起動できます。

今でこそ、この機能は数多くの Linux ディストリビューションにとって当たり前になっていますし、過去には Ubuntu の「初心者にやさしい」特徴の一つとして紹介されることもありました。しかし実はインストールの最初のリリースである Ubuntu 4.10 では、インストーラー兼 Live イメージは存在しなかったのです*1。

Ubuntu 公式のインストーラー兼 Live CD イメージが現れたのは Ubuntu 6.06 LTS からです。そしてそれまでのテキストベースのインストールイメージは特定の環境向けの「Alternate インストールイメージ」として提供されることになりました。

今回はそんな Ubuntu インストーラーの原点である Alternate インストールイメージの歴史を振り返ります。

*1 Wikipedia によると、Live CD として起動できる最初の OS は FM TOWNS で使われた「TownOS」だそうです。また Linux の Live CD 自体は 1990 年代半ばあたりから存在していました。

2.2 Live CD 前夜

Alternate インストールイメージの原点は、Ubuntu 4.10 の標準のインストールイメージです。当時のアナウンスメール*2には次のような記載があります。

* Simple and fast Installation

Ubuntu comes on one single CD, with thousands of extra packages available online. The install is optimised for speed and simplicity. Ubuntu has excellent support for laptops (both x86 based and Powerbook / iBook PPC based), and can also be setup in a minimalist server configuration.

ポイントは「1枚のCDですべてをまかなえる」ということ。CDイメージの中にインストール完了までに必要なパッケージが揃っているのです。CDさえあればネットワーク環境がなくてもLinuxデスクトップ環境を作ることができるようになっています。

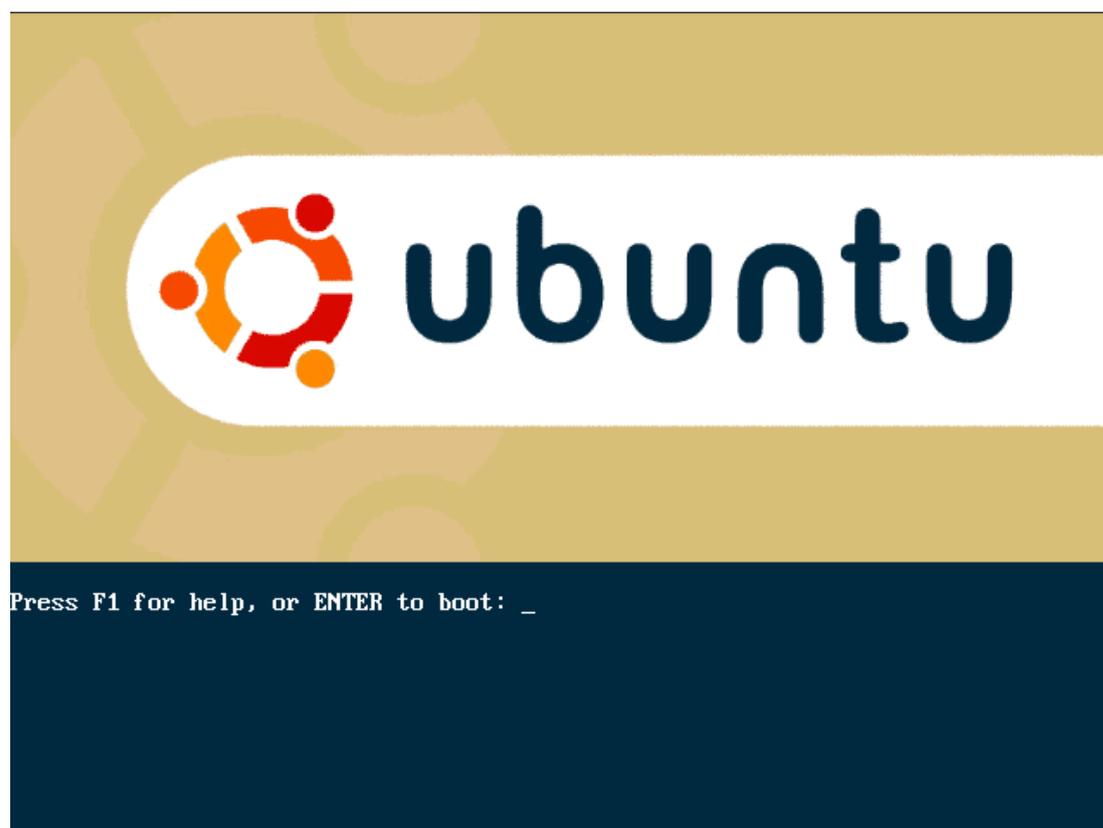


図 2.1 Ubuntu 4.10 のブートスプラッシュ画面

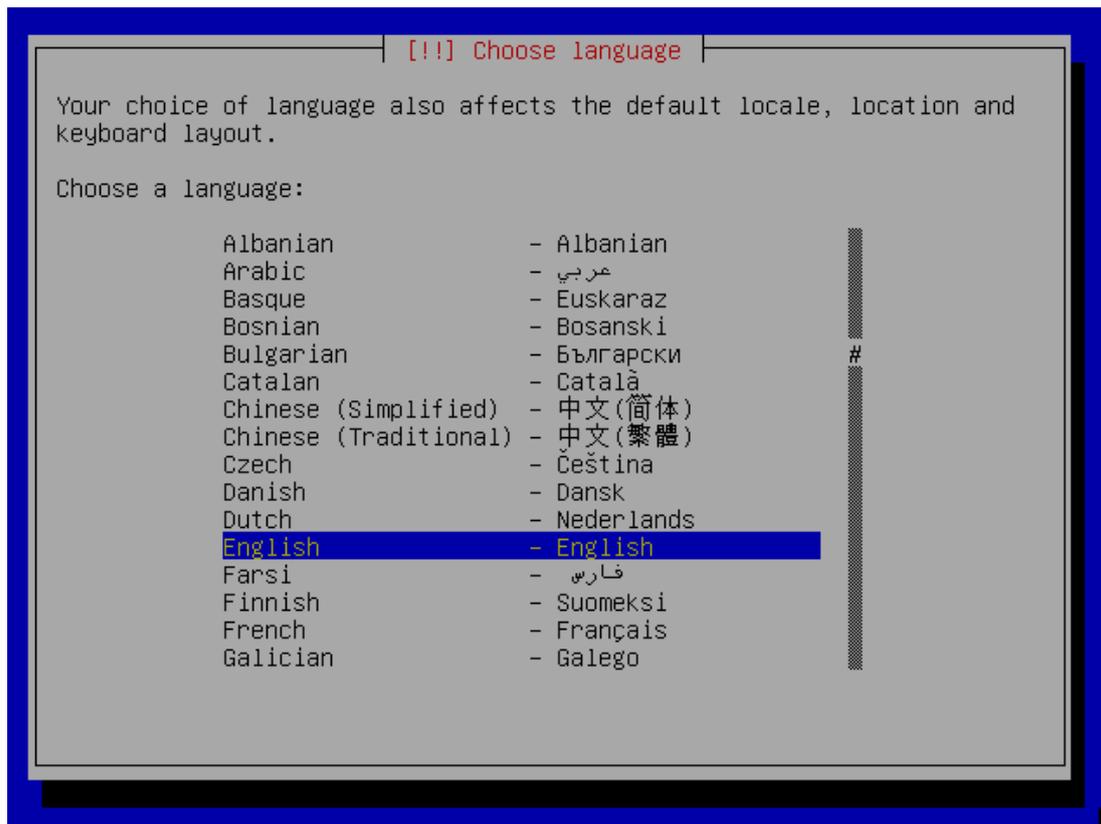


図 2.2 Ubuntu 4.10 のインストーラーは Alternate のそれと同じでした

ちなみに 4.10 の時点ではサーバー版のイメージもなかったため、上記にあるように LAMP サーバーの構築もこのイメージで行えるよう、Apache や MySQL などのパッケージもこのイメージに同梱されている状態でした。

当時のインストーラーは、Debian sarge 用に新規に開発中だった Debian インストーラーをベースにいくつかの変更を加えたテキストベースのインストーラーでした^{*3}。そのため、見た目その物は、現在のサーバー版のインストーラーとそれほど違いません。

Ubuntu 4.10 のリリースから遅れること一週間、Live CD のアナウンス^{*4}も行われています。こちらは実験的なリリースということもあってか、i386 版のみの提供です。

Ubuntu 5.04 になると、当時サポートしていた i386、amd64、ppc のすべてのアーキテクチャに Live CD が対応するようになりました。さらに、リリースアナウンス^{*5}にも掲載されています。

Ubuntu 5.10 では初のインストーラー兼 Live イメージが「DVD 向け」にリリースされます^{*6}。といってもこれは「インストーラーとしても Live DVD としても使える」というコンビネーションタイプのもので、起動時の最初にインストールモードか Live モードかを選ぶ必要があります。さら

^{*2} <https://lists.ubuntu.com/archives/ubuntu-announce/2004-October/000003.html>

^{*3} ここでは「テキストベース」と言っていますが、使用していたのは ncurses ベースの方で、本来のテキストベースとも言える「テキストモード」ではありません。また、その後 Debian インストーラー自身にも Gtk を利用したグラフィカルなインストーラーモードが実装されることになります。

^{*4} <https://lists.ubuntu.com/archives/ubuntu-announce/2004-October/000004.html>

^{*5} <https://lists.ubuntu.com/archives/ubuntu-announce/2005-April/000023.html>

Chap. 3

Ubuntu を「未来をうかがう」道具にする

長南 浩 (Ubuntu Japanese Team)

Ubuntu が登場してこの 10 月で 10 周年を迎えた。この 10 年を振り返ってみても Ubuntu や UNIX、ひいては IT 業界が現在のような状況になると予測するのは難しかったのではないかな。

UNIX や Linux に近い業界にいる人間であっても未来を予測することは非常に難しいもの。そんな未来を必死に予測するのは最初からあきらめ、この際精度は無視して未来を楽しく予想するために Ubuntu 上で動作する「占いアプリケーション」を紹介したい。

3.1 未来を予測するのは難しい?

この 10 年を振り返ってみると、IT や OSS をとりまく環境は大きく変化した。Ubuntu のように大きな成功を取めたプロジェクトや製品も多いが、その影で、不幸にして時の狭間に消え去ったソフトウェア達もまた多い。

日進月歩で変化するこの業界の未来を予想するのは非常に難しい。そんな状況の下で真面目に未来を予測するのはこの際あきらめ、不安定な未来を楽しく (精度はこの際無視して!) 予想するために、Ubuntu 上で動作する「占いアプリケーション」を紹介したい。

具体的な占術として、比較的有名な「西洋占星術」と「タロット占い」を題材とした。

3.2 西洋占星術

西洋占星術とりわけ 12 星座占いは占いの中では最もポピュラーなもので、朝のテレビ情報番組などでも定番の人気コンテンツだ。

地球から見た誕生日の太陽の位置で占うのが 12 星座占いだ。実際には太陽だけでなく他の惑星の位置や相互関係を「ホロスコープ」という図表に書き出し、それを材料に占いを行うのが西洋占星術のオーソドックスなスタイルだ。

出生ホロスコープを計算するアプリケーションが定番で、Ubuntu で動作するものをいくつか紹介しよう。

3.2.1 Astrolog

Astrolog は 1991 年に Usenet ^{*2} alt.astrology に投稿された C 言語のソースコード^{*1} が大元となった最古参の占星術プログラムで、最新バージョンは 5.40 である。

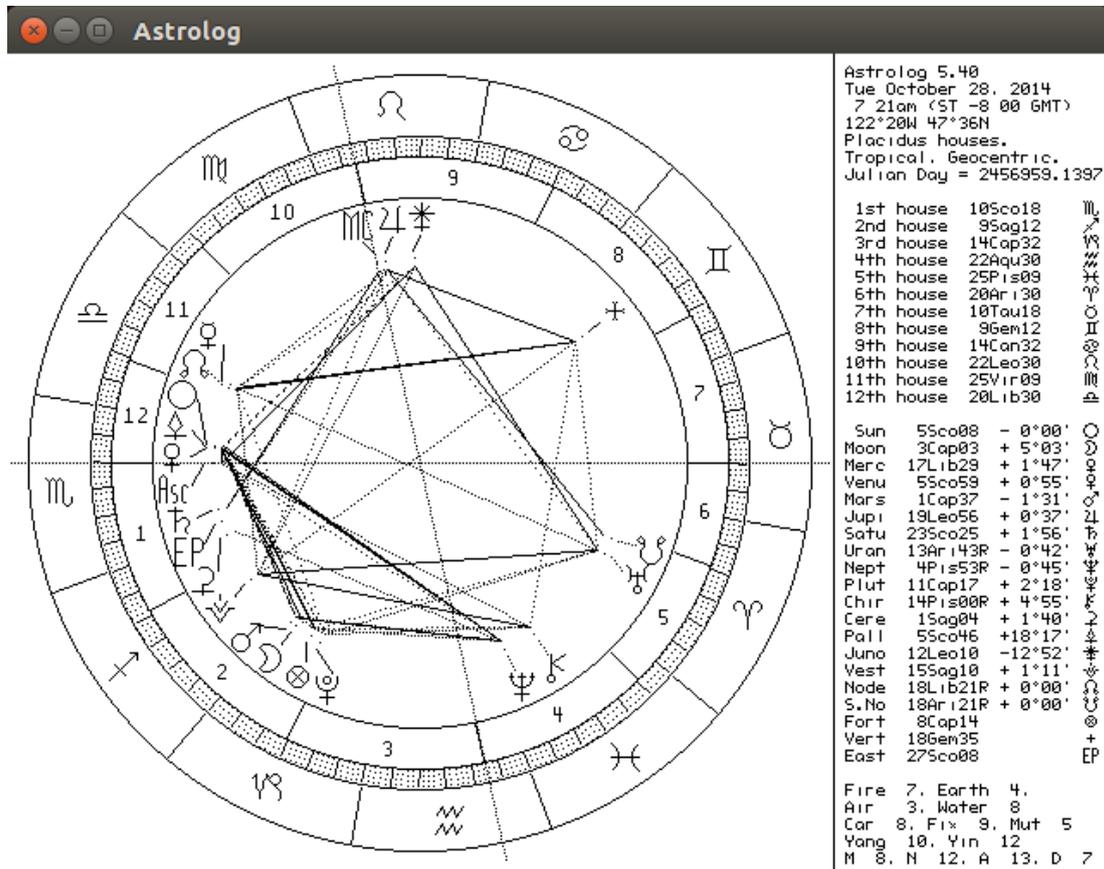


図 3.1 Astrolog の実行画面 (紙面掲載用に白地に黒の描画設定にしている)

Ubuntu 向けにパッケージは作られておらず、PPA も存在していないので、現時点では、本家 Astrolog のサイトからソースコードを入手してコンパイルする必要がある。

実際には X11 での開発環境を揃えてコンパイルする必要があるが、一例を以下に掲げる。非常に歴史のある「古い」ソフトウェアでソースアーカイブがシェルアーカイブ形式 (実態はシェルスクリプト) で配布されているのに注意が必要だ。

リスト 3.1: Astrolog のインストール例

```
$ sudo apt-get install build-essential make libx11-dev wget
$ mkdir work
$ cd work
```

^{*1} <https://groups.google.com/forum/#!topic/alt.astrology/vOqdSmZ6ld4> で最初の投稿を読むことができる。

```
$ wget http://www.astrolog.org/ftp/ast54unx.shr
$ /bin/sh ./ast54unx.shr
$ make
$ ./astrolog -X -n
```

起動オプションは -H オプションをつけて実行するとヘルプが表示される。インストール例では、X11 上に表示 (-X)、現在時刻を使用 (-n) の組み合わせだ。通常は -n オプションをつけずに実行し、依頼者の生年月日を入力する使い方が多い。

3.2.2 OpenAstro.org

OpenAstro.org は比較的新し目の西洋占星術アプリケーションで、Astrolog ほど詳細ではないが、基本的な機能は実用的に使うことができる。見やすいホロスコープ表示も魅力だ。

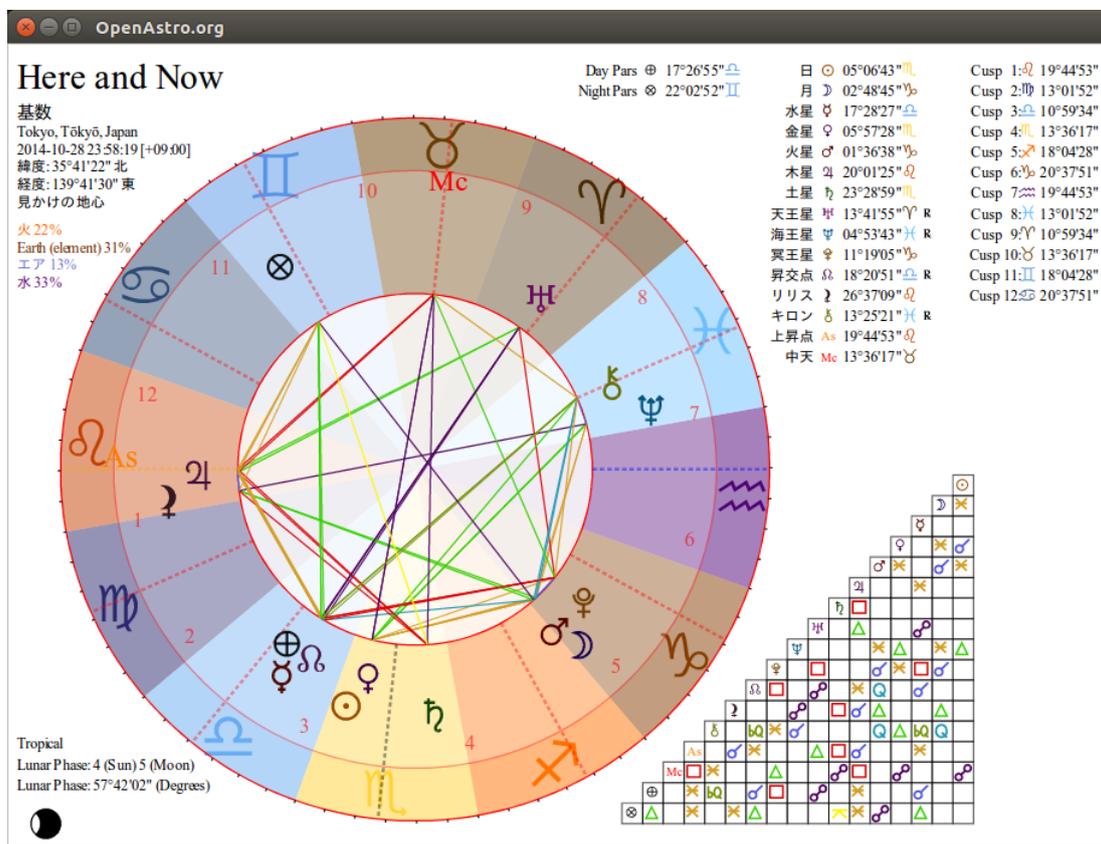


図 3.2 OpenAstro.org の実行画面

Ubuntu 向けには PPA が準備されていて、比較的簡単にインストール可能だ。

^{*2} Usenet はインターネットが普及するはるか前から使われていた情報交換システム「ネットニュース」で、UUCP や NNTP といったプロトコルを使い定期的に記事を交換することでコミュニケーションを行っていた。日本では fj や japan といったカテゴリの参加者が多かった。

Chap. 4

普通の社会人が【録画環境】を（もう少し）やってみた

kazken3(@kazken3)

9月の初頭、いくやさんから今回も書いてみませんか？ とご連絡をいただきましたので、今回も懲りずに録画環境周辺について書いてみました。^{*1}

4.1 前回の kazken3 !

- PT3 による録画環境を構築した
- android を使って録画した動画を見れるようにした。

もし、気になる方がいましたら前号を [こちら](#) でお買い求めいただければ幸いです。

4.2 最近の状況

- vlc がえらいことになった

14.04 の VLC がトランスコーディング再生対応になったらしく、一覧が同じファイル名で溢れてしまいました。このため、Rygel のトランスコード機能を OFF にしました。^{*2}

- HDD 買いました

3TB もお安くなってきたこともあり、消費税改定前に買ってしまいましたが、更に安くなってしまい複雑な心境です...

上記以外は、あまり変わりはないのんびりとした録画生活を送っていました。^{*3}

^{*1} いつもありがとうございます&今回遅れてすみません...

^{*2} rygel.conf で enable-transcoding=false にしました

^{*3} しごとはバタバタしていましたけどね、フハハハハ

4.3 今回のお題

前回の最後に今後やってみたいことについてちょろちょろと書いていましたが、今回は家では絶大な再生環境を誇っていても、唯一できなかった持ち出し環境にチャレンジしてみました。^{*4}

今回のポイント以下になります。

- Nexus5 で見れるようにしたい
- サイズはできるだけ小さくしたい
- エンコードするサーバはへちよいので、負担は掛けたくない。

4.4 物理的な前準備

以下のものを準備しました。というか今回も持ってました。

- 14.04 の入った Ubuntu 環境：前回と同様、HP MicroServer です。Ubuntu Server を 13.10 からアップグレードして使っています。^{*5}
- Nexus5:これも前回同様ですが、動画再生専用端末として役立っています。
- MicroUSB ケーブル:Ubuntu と Nexus5 の接続用ですね。

4.5 エンコード環境の構築

今回は持ち出し環境の構築のため、ffmpeg を前回構築した録画サーバと同じサーバに構築しました。

4.5.1 ffmpeg の導入

ffmpeg については言わずと知れたエンコーディング界の王様ですが、過去にひと悶着があり、14.04 の Ubuntu には ffmpeg から fork した libav が main レポジトリに入っているが、ffmpeg は入っていないという状況です。しかし、「普通の人は ffmpeg のほうがいい」との勧めもありましたので、普通の人である筆者は ppa 経由で導入を行います。

では、ffmpeg の ppa を追加し、依存ファイルも含めてインストールを行きましょう。^{*6}

```
$ sudo add-apt-repository ppa:mc3man/trusty-media
$ sudo apt-get update
$ sudo apt-get install ffmpeg
```

^{*4} 他の内容はどこかでまた別の機会に

^{*5} <http://h50146.www5.hp.com/products/servers/proliant/micro/>

^{*6} Utopic の場合は `ppa:samrog131/ppa` ですかね

これで ffmpeg の準備は完了です。

4.5.2 エンコード時間の計測とオプションの決定

まずは、エンコード時間とその画質を比較して、ffmpeg でのエンコードのオプションを確定したいと思います。今回、出力するファイルは H.264 の mpeg4 ファイルとし、以下のコマンドをベースにオプションを変更しながらエンコードを行います。

```
$ ffmpeg -y -i SOMETHINGMOVIES.ts -f mp4 -vcodec libx264 -r 30000/1001 \  
> -aspect 16:9 -s 768x432 -bufsize 20000k -maxrate 25000k -strict -2 \  
> -ac 2 -ar 48000 -ab 128k -threads 1 ./SOMETHINGMOVIES_h264.mp4
```

指定したコマンドのオプションは、以下の感じになります*7*8

```
-y: 確認しないで上書きを行う  
-i (ファイル名): 入力ファイル名の指定  
-f: 出力ファイルフォーマットの強制指定  
-vcodec: 出力ファイルへのビデオコーデック指定  
-r: 出力フレームレート指定  
-aspect: 出力ファイルのアスペクト比  
-s: フレームサイズ  
-bufsize: バッファサイズの指定  
-maxrate: 最大ビットレート  
-strict: デフォルトで機能しない AAC エンコーダーの起動指定  
-ab: 音声ビットレート  
-ac: 出力音声チャンネルの指定  
-ar: 出力音声周波数の指定  
-threads: エンコード時の処理スレッド数
```

ここでのポイントは、フレームサイズと処理スレッド数です。フレームサイズについてはアスペクト比を維持するため、16:9 となる数値を 1440x1080 や 1280x720、768x432 といった感じで指定します。フレームサイズを小さくすればするほどエンコード後のファイルサイズは小さくなりエンコードする時間も短縮されますが、画像の質とのトレードオフになります。

処理スレッド数については、論理コア数 + α 分まで処理を多重化することが可能です*9。多くすればするほど処理時間が早くなりますが、エンコードを行うサーバの負荷が高くなり、他の処理（録画処理）などへの影響も考え、今回は最小である 1 を指定しています。

今回のエンコードの計測を行うにあたって、表 4.1 の動画を用意しました*10

*7 プロファイルを用意すればさらに詳細な設定が可能ですが、簡単に実施できることが目標なので今回は端折っています。

*8 WebM も試したかったんだけど時間がなかったんだよー

*9 自動でスレッド割り当てを指定する場合は 0

Chap. 5

Ubuntu 10 歳、CUPS 15 歳

おがさわらなるひこ (@naru0ga)

印刷技術愛好家（そろそろこの看板下ろそうかしらと思ってますけど）のおがさわらなるひこです。こんにちは。

Ubuntu さん、10 歳の誕生日おめでとうございます。2004 年 10 月 20 日、最初の Ubuntu 4.10 がリリースされました。なので、2014 年 10 月 20 日は Ubuntu の 10 歳の誕生日であり、今年 2014 年 10 月 24 日にリリースされた 14.10 は Ubuntu10 周年を記念するバージョンということになります。この本をお読みの方なら、当然これはご存知ですよ。

そして、Ubuntu の標準印刷システムであるところの CUPS さんも、2014 年 10 月 1 日、満 15 歳の誕生日を迎えました*1。すばらしい。ぱちぱち。1999 年 10 月 1 日にバージョン 1.0 がリリースされたそうです。

そんなわけで同じ 10 月生まれである Ubuntu と CUPS の仲について、ちょっと歴史を振り返ってみましょう。また、その他の印刷関連ツールの変遷についても折りにふれて見ていきます。

5.1 CUPS って？

CUPS について一から説明するのもなんですが、ここは歴史を振り返る記事なので、CUPS が生まれた翌年の 2000 年の CUPS ホームページの FAQ*2 の「What Is CUPS?」から引用してみましよう。

CUPS provides a portable printing layer for UNIX-based operating systems. It has been developed by Easy Software Products to promote a standard printing solution for all UNIX vendors and users. CUPS provides the System V and Berkeley command-line interfaces.

CUPS uses the Internet Printing Protocol ("IPP") as the basis for managing print jobs and queues. The Line Printer Daemon ("LPD") Server Message Block ("SMB"), and AppSocket (a.k.a. JetDirect) protocols are also supported with reduced functionality. CUPS adds network printer browsing and PostScript Printer Description ("PPD") based printing options to support real-world printing under UNIX.

CUPS also includes a customized version of GNU Ghostscript (currently based off GNU

Ghostscript 5.50) and an image file RIP that are used to support non-PostScript printers. Sample drivers for HP and EPSON printers are included that use these filters.

まあ翻訳するまでもないですけど：

- 開発してたのは Easy Software Products って会社（開発者 Micheal Sweet の会社です）
- 当時から Internet Printing Protocol をバリバリ使ってた。実は CUPS は IPP の参照実装
- 最初から PPD サポートはしてた
- 当時から Ghostscript を使う印刷システムを提供してた

って感じですね。Ghostscript をフォークしてたのは歴史的な理由ですけど、まあこれはいずれ機会があればということで省略。1999 年当時から、コンセプトとしては今とあんまり変わらない形で進化してるということになりますね。

なお当時は Common Unix Printing System が正式名称でした。

5.2 記念すべき始まり

では、次には Ubuntu の歴史と共に追いかけてみましょう。

最初は Ubuntu の記念すべきリリースである 4.10 です。この頃の CUPS はバージョン 1.1.20final+cvs20040330-4ubuntu16 だそうです。ChangeLog を参照すると Debian 側の変更がそのまま流入しているようです。

CUPS 1.1 では、CUPS 1.0 に加えて Web 管理インタフェースが導入されています。CUPS 1.3 までは見た目大きな変更はなく、このインタフェースが利用されています。なおこの頃の Web インタフェースは日本語の PPD をサポートしておらず、無理に使うと文字化けしていました。

また、当時の CUPS のパッケージ名は cupsys といいました。これは、CUPS という名称が Easy Software Products (CUPS の開発者、Micheal Sweet の会社) の登録商標だったからだそうです*3。

その他の印刷関連パッケージの話をする、CUPS 印刷スタックに入り込んでジョブ制御コマンドを挿入できる foomatic-rip、大昔にあった LinuxPrinting.org*4 というところで配布されていた foomatic-rip を利用した PPD コレクション集 foomatic-filters-ppds、また HP 純正のオープンソース印刷スタック HPLIP*6 の前身である hpijs などはこの頃から投入されていました。海外製のプリンターについてはこの頃から自然に使えるようになっていた感じですね。

今の Ubuntu の「システム設定-プリンター」で用いられている system-config-printer*7 はまだ開発されておらず、gnome-cups-manager*5 というツールが使われていました。プリンターの追加、デフォルト印刷設定など、基本的な操作はできるツールだったようです。

5.3 CUPS 1.2 リリース

時代下って、2006 年 6 月にリリースされた Ubuntu 6.06 (Dapper Drake) では、CUPS 1.2 が登場しました。

CUPS 1.2 はユーザーにとって目立った変更はないのですが、ネットワーク共有プリンターをブラウザする機構が入ったのはこのバージョンからです。CUPS のプリンターブラウジングはポート 631 (IPP のポート) をブロードキャストするという割と荒っぽいやり方で、これが後々問題になっ

たりするのですが、それはまた後ほど。

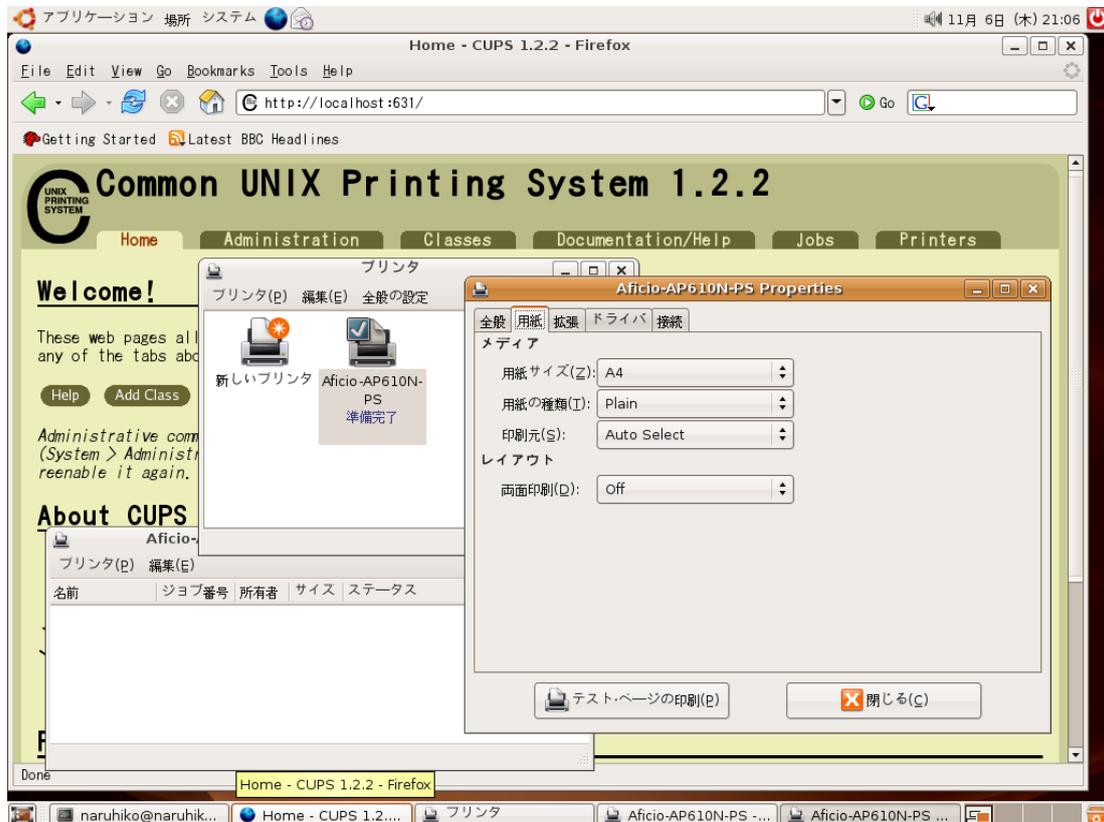


図 5.1 Dapper の印刷ツール (CUPS Web I/F、gnome-cups-manager)

5.4 system-config-printer 登場

Fedora で開発されていた印刷設定ユーティリティ、system-config-printer が Ubuntu に投入されたのは、Ubuntu 7.10 (Gusty Gibbon) のことでした。まったく私的なことを書くと、7.10 は私が初めてちゃんと使い出した Ubuntu (というかデスクトップ Linux) なので、それなりに思い入れがあります。

gnome-cups-manager が 0.33 をリリースしてから 1 年ほど開発が停滞していたことを理由に、先に書いた LinuxPrinting.org の管理者である Till Kamppeter*⁸ が提案した*⁹ のが理由です。

その後 system-config-printer は Ubuntu 独自の拡張も行われて、Ubuntu にとってもその他の Linux デスクトップ環境にとっても、重要なモジュールとなっていきます。

7.10 に収録されていた CUPS は 1.3 で、このバージョンでようやく日本語版 PPD のサポートが入った……と、記憶しています。

Chap. 6

Ubuntu 14.04/14.10 でも ATOK X 3 を動かす

あわしろいくや

昔から Ubuntu をお使いの方は、もしかしたら ATOK X3 をお持ちかも知れません。しかし、あったとしても最近の Ubuntu では動作させるのが面倒なのでそのまま眠らせていることでしょう。

今回は ATOK X3 を最近の Ubuntu で動作させる方法を紹介します。

6.1 Ubuntu と ATOK X3

ATOK X3 は 2007 年 11 月 30 日に発売されました。もう 7 年も経ってしまったのですね。発売当初は Ubuntu はサポート対象外だったのですが、その後 7.10 が正式にサポート対象となり、9.04 まではサポートが明言されました。その後もなんとなく使えてはいたのですが、Unity が登場してからは Dash でイマイチちゃんと動作しなくなりました。これは ATOK X3 が悪いのではなく、Unity が採用しているツールキット (nux) のできが悪いせいですが。あとは GTK+3 への移行が進んだのもあります。それでも GNOME Fallback/Flashback に切り替えていれば使えましたが、im-switch から im-config に代わった 13.04 からは使えなくなってしまいました。

Ubuntu 14.10 からは GNOME 2.X のフォークである MATE(マテ) がリポジトリに入り、オフィシャルではないもののフレーバーも追加されました。それが Ubuntu MATE です。

今回は MATE 1.8 と ATOK X3 で、懐かしい Ubuntu 10.10 の頃のルック&フィールを現代に蘇らせましょう。

6.2 Ubuntu MATE

Ubuntu MATE に関しては、Ubuntu Weekly Recipe 第 348 回 新フレーバー, Ubuntu MATE 入門^{*1}を参考にダウンロードやインストールを行ってください。ただし、今回使用するのは i386 用のインストールイメージです。AMD64 は話がややこしくなるので使用していません。この記事の発表後に Ubuntu MATE 14.04 がリリースされました^{*2}。今回は使用しないものの、こちらのほうがサポート期間が長いのでオススメです^{*3}。インストールの手順に違いはありません。たぶん。確

Chap. 7

Ubuntu Studio フレーバー 7 周年

坂本 貴史 (Ubuntu Japanese Team)

Ubuntu10 周年、めでたい。ということは、Ubuntu のフレーバーの中にもぼちぼち節目の年を迎えているものがあり、そんなフレーバーのひとつが Ubuntu Studio です。

7.1 そもそも Ubuntu のフレーバーって何よ？

Ubuntu はいろいろなソフトウェアで構成されています。デフォルトでインストールされるソフトウェアの組み合わせによって特色を出し、独自にリリースされているものを派生ディストリビューションと呼びます。

Ubuntu という名前の商標の関係上、Ubuntu のディストリビューションには「公式」なもの、「非公式」なものがあり、Ubuntu の名を冠した公式なディストリビューションで、かつ Ubuntu プロジェクトに貢献しているコミュニティがリリースするディストリビューションをフレーバーと呼ぶようです。

例えばデスクトップ環境。Ubuntu のデフォルトのデスクトップ環境は Unity ですが、これを KDE に置きかえた Kubuntu、GNOME に置きかえた Ubuntu GNOME、Xfce に置きかえた Xubuntu、LXDE に置きかえた Lubuntu があります。あと、MATE に置きかえた Ubuntu MATE が近い将来、フレーバーになるらしいです。

また独自のコンセプトを持ってソフトウェアを構成したものがあります。教育というコンセプトを持つ Edubuntu、デジタルビデオブロードキャスティングというコンセプトを持つ Mythbuntu があります。Ubuntu Studio は、コンテンツ制作というコンセプトを持つフレーバーです。

7.2 Ubuntu Studio のコンセプト

Ubuntu Studio は存在感のないフレーバーです。それこそ、商業媒体の記事がフレーバーに言及する度にリスト漏れする程度には。そもそもコンセプトからしてピンと来ない人が多いでしょう。

Linux で利用可能なソフトウェアの中には、音声や画像、動画の編集に特化したものがあります。プロフェッショナル向けソフトウェアと同程度に実現しているものさえあります。

例えば、ラスターイメージ編集ソフトウェアとして広く使われている GIMP、MyPaint、Krita。マルチプラットフォームな 3D モデリング・レンダリングソフトウェアとして有名な Blender。ノンリ

ニアビデオ編集ソフトウェアとして高度な機能を備えた Kdenlive。高い完成度を持つデジタルオーディオワークステーションソフトウェアである Ardour、デスクトップパブリッシングソフトウェアである Scribus などがあります。

こういったソフトウェアは高機能な反面、機能の多くを他のソフトウェアに依存するなどしており、インストールが難しいことがあります。そこで、こういったソフトウェアをまとめて収録し、デジタルコンテンツ制作というコンセプトをもたせたものが Ubuntu Studio です。またコミュニティの活動を通して、こういったソフトウェアが Ubuntu リポジトリに収録される手助けをするという役割も果たしています。

7.3 Ubuntu Studio の 7 年間

Ubuntu Studio の初リリースは Ubuntu 7.04 と同時です。今年はプロジェクトが始まって 7 年目となります。7 年が節目かどうかは筆者の独断と偏見に基づいていますので、どうかご了承ください。

リリースノートは散逸してしまいましたが、筆者が日本語に訳しておいたものが wiki.ubuntulinux.jp にあります*1ので、今回はそれを参照します。当初から、インストールパッケージが、その目的に応じた複数の「タスク」に分かれていて、Debian システムの tasksel で選択可能だったことがわかります。また、パッケージのいくつかはプロジェクトの PPA で提供されており、Ubuntu のリポジトリには入っていなかったことが伺えます。インストールイメージは 860MB と、当初から CD サイズに納める気がなかったことがわかります。

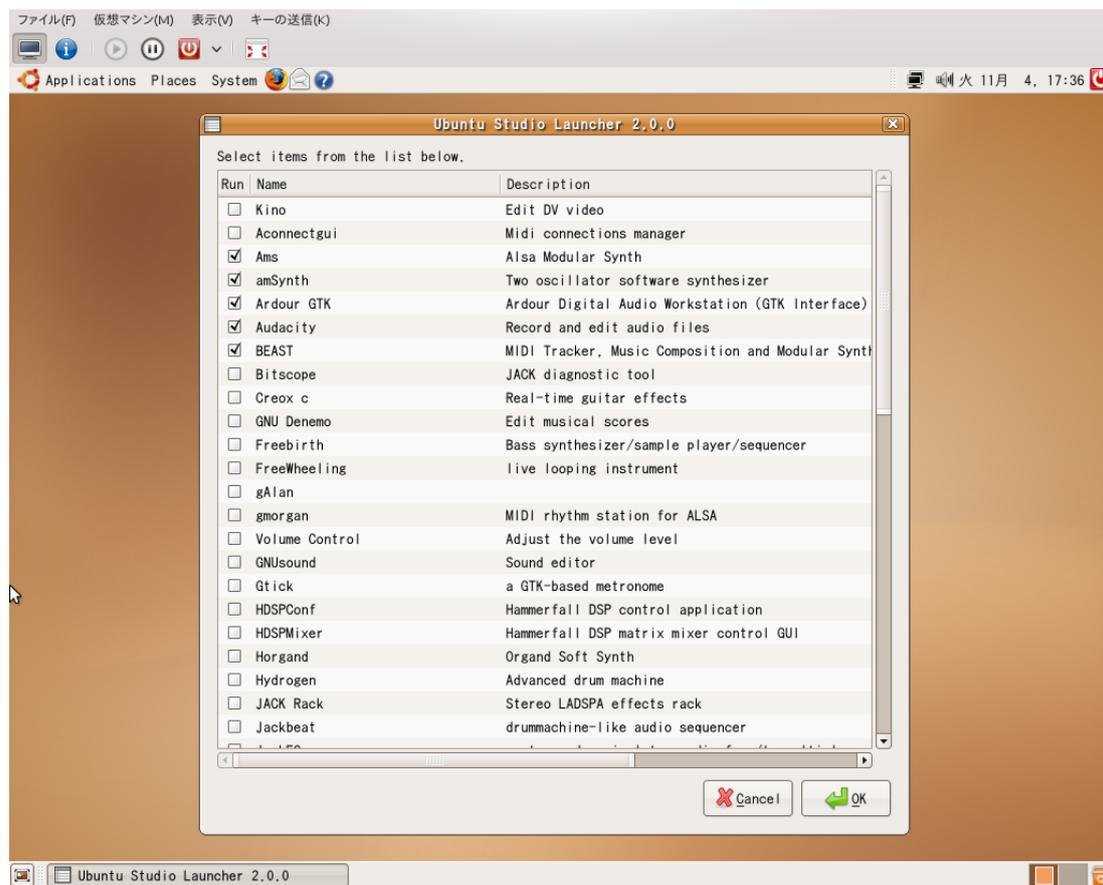


図 7.1 7.04 のデスクトップ。UbuntuStudio Launcher というソフトウェアが提供されていた。現在は Lash あるいは Ladisch が同等以上の機能を提供している。

Ubuntu Studio 7.10 になると、すべてのパッケージが Ubuntu リポジトリ入りしたこと、i386/amd64 がどちらもサポートされたこと、メニューを改善したことがわかります。また、ブートスプラッシュやデスクトップ環境の見た目が独自のデザインとなりました。このシックなデザインに引かれて、使い始めたユーザーも多いかもしれません。

Chap. 8

Ubuntu で Blink(1) mk2 を動かしてみる

kazken3(@kazken3)

さて、ふたたびの登場となります。今回は謎デバイスを Ubuntu で動かした話をしたいと思います。^{*1}

8.1 謎デバイス「Blink(1) mk2」との出会い

夏が始まろうとするある日のこと。いつものようにふらふらと Web をさまよっていたところ、Kickstarter のこのページが目に入った。それは、過去にリリースした blink(1) の改良型である、Blink(1) mk2 の出資者を募集だった。

「ふむふむ、通知用 LED か。ちょっと面白そうだねー」

「EARLY BIRDS^{*2}はもう終わっているし、まあ\$30 だったらいいかなー」^{*3}

まあ、だめでもまだ諦められる金額だし。。。と思った筆者は出資してみた。

2013/06/22 出資申し込み。

2013/08/24 Amazon Paymant 経由で 4,535 円引き落とし。

～ここで部品の不良などにより一時的に出荷停止があり、しばらく間が開きます。～

2014/06/11 出荷再開。

2014/06/25 到着。長かった。^{*4}

^{*1} こういった謎デバイスの記事だとあまり興味をそそらないかもしれませんが、自己満足というところでひとつ。

^{*2} 早期購入者特典

^{*3} 結局は、US でないため\$30+\$15 で\$45 の出資でした。

出資から商品を得るまでほぼ1年待った事になります。よく待ったなとは思いましたが、定期的に状況報告がメールでがあったのであまり気にしていなかったのが実情です。でも出資者が報酬を得ることは難しいんだなとは思いました。

8.2 開封の儀

まあ、よくある開封の儀です。15cm 四方の小さな箱に入ってやってきました。



開封すると、Blink(1) mk2 がちょこんと。



上げ底になっているのですべて取り出してみると、通常の USB ケーブルとグースネックタイプの USB ケーブルが一對ずつ、あとケーブルクリップが3つ入っていました。^{*5}

^{*4} 区内の郵便局に行ったのはいいけど終電が終わって帰れなかった話はまたしますね。

Chap. 9

Ubuntu 8.04 はこんなだった

あわしろいくや

この章は、UNIX magazine 2008 summer に掲載された『一番熱い Linux Ubuntu 8.04』の前半を再録する。後半はフレーバーの紹介だが、長すぎるのでカットする。今読むととてもひどい原稿であるが（いきなりリストはないだろ……）、掲載時は編集さんがいい感じにしてくれている。

Ubuntu 6.06 の頃から少しずつ原稿を書き始めたようではあるが、ある程度まとまった形で掲載され、元の原稿が現存しているのがこれだった。

発売日はおそらく 2008 年 6 月 18 日だ。この頃のユニマガはあの伝説の TeX 組版のものではなく、小奇麗な体裁になっており、また季刊であった。程なくして休刊し、伝説の ASCII.technologies が創刊することになる（2011 年に休刊）。

今と違う部分は適宜ツッコミを入れている。当時の雰囲気但至少でも感じていただければ幸いだ。

9.1 Ubuntu 概要

9.1.1 Ubuntu とは

Ubuntu は、英 Canonical Ltd. がコミュニティとともに開発し、リリースしているディストリビューションである。他のディストリビューションと比較して、次のような特徴を持つ。

- 全てのバージョン、全てのエディションが必ず無償で提供される
- デスクトップ版とサーバ版がある。モバイル版が現在開発中である
- 原則として 2 年に一度、LTS(Long Term Support) と呼ばれる長期サポート版がリリースされる
- セキュリティアップデートは通常 18 ヶ月間提供される。LTS はサーバ版で 5 年間、デスクトップ版で 3 年間のアップデートがある
- サーバ版もデスクトップ版も 700MB の CD1 枚に収録できるように提供される
- デスクトップ版のインストーラは 2 種類あり、1 つは Live CD の体裁を取るグラフィカルインストーラであり、もう 1 つはこれが動作しないときなどに使用する代替版インストーラで

ある

- リリースバージョンはリリースした年と月を表す。例えば 8.04 は 2008 年 4 月にリリースされたという意味である
- 多数の派生バージョンがある。Ubuntu のデスクトップ環境は GNOME だが、これを KDE にした Kubuntu などがある。詳しくは後述する*1

9.1.2 Ubuntu の歴史

Ubuntu はこれまで 8 つのバージョンがリリースされた。なお、前述のとおりバージョン番号がリリースされた年月を表現しているので、リリース日は省略する。

- 4.10 (Warty Warthog)
 - 最初のリリース。基本的なコンセプトはこの頃から変わっていない
- 5.04 (Hoary Hedgehog)
 - 初のオフィシャルな Ubuntu 派生バージョンである Kubuntu のリリースが開始された
- 5.10 (Breezy Badger)
 - ローカライズが重要視され始め、言語パックや容易にインストールする言語サポートの機能が追加された
- 6.06 LTS (Dapper Drake)
 - 初の LTS リリースであり、主に CJK のローカライズのためにリリースが 2 ヶ月延びたのが特筆事項である。グラフィカルインストーラがメインになったのもこれからだ。
- 6.10 (Edgy Eft)
 - Upstart という init システムが導入された。名前のおり鋭いのはこのくらいで、あとは順当なバージョンアップである
- 7.04 (Feisty Fawn)
 - Codec を簡単にインストールする機能やデスクトップ効果が統合された。他にも多数の変更があり、現在の基礎を築いたバージョンである
- 7.10 (gutsy gibbon)
 - デスクトップ検索、新しいプリンタ設定ツール、NTFS への書き込み、AppArmor などが追加された
- 8.04 LTS (Hardy Heron)
 - 現在の安定バージョンで、2 度目の LTS である。詳しくは後述する。
- 8.10 (Intrepid Ibex)
 - 現在の開発版である。

9.1.3 Canonical Ltd. とは

Canonical Ltd. は Ubuntu 創始者の Mark Shuttleworth が 2004 年に創業した企業で、従業員は 18 カ国に 130 人ほどである。主な業務は Ubuntu ないし関連ディストリビューションの開発とサ

*1 前述のとおり省略しています

ポート、Launchpad という Ubuntu で使われているコラボレーションシステムの開発、Bazaar というバージョン管理システムの開発、Landscape というソフトウェアの管理を容易にするツールの開発である。Ubuntu の開発者のうちのぐらゐが Canonical Ltd. の社員なのかという資料は見つけられなかったが、130 名でこれだけのプロジェクトがあるとそれほど多くない割合であるということとは想像に難くない。

9.1.4 Ubuntu Japanese Team とは

Ubuntu Japanese Team は、Ubuntu 公認のローカルコミュニティチームである。ローカライズド Desktop CD^{*2}の作成と配布、フォーラム・Wiki・メーリングリストの管理、非公開な問い合わせの対応が主な活動内用である。コアメンバーは筆者を含め片手で数えられるぐらゐしかいない^{*3}。

9.2 Ubuntu の機能

ここからは、8.04 より前から使っている Ubuntu の機能を紹介する。

9.2.1 デスクトップ効果

デスクトップ効果^{*4}は、平たく言ってしまうと Compiz である。ハードウェアとドライバの組み合わせに条件はあるが、標準で有効になっているのでインストール後すぐに使用できる。設定の変更は [システム]-[設定]-[外観の設定] の [視覚効果] タブから行うことができる。通常では 3 つからしか選択できないが、simple-ccsm というパッケージをインストールすると [設定変更] が追加され、詳細な設定の変更が可能になる。

プロプライエタリなドライバも容易にインストールすることができるので、方法を後述する。

9.2.2 印刷 (system-config-printer)

Redhat (Fedora) 由来のプリンタ設定ツールである。以前の gnome-cups-manager ではできなかった、プリンタの自動検出とそれに伴うドライバの自動インストール機能がついている。ただし、ドライバは必ずしも正しいものがインストールされるわけではないので注意が必要だ。もちろんドライバがない場合もある。

8.04 からはブラザーの一部機種用ドライバが標準で含まれているので、ユーザにとっては朗報だろう。筆者は個人的に所有している HL-5270DN で正常な認識と印刷を確認した。ただし、ブラザーだけではなく全体的に言えることだが、これは日本国外での仕様に基づいているので注意が必要である。

^{*2} 今でいう日本語 Remix

^{*3} 確か事実上小林さんと私しかいなかった頃だ

^{*4} この頃妙にデスクトップ効果が流行っていたのだ。一時的なものであったが、その後 Compiz の開発者が Canonical に入社したり、Unity のウィンドウマネージャーになったり、未だに開発が続いていたりは全く予想できなかった

9.2.3 (アプリケーションの) 追加と削除

Ubuntu には必要十分 (Just Works) なアプリケーションが揃っているが、個人の好みによっては足りないと思うこともあるだろう。そういった場合、[アプリケーション]-[追加と削除] から好みのアプリケーションをインストールするとよい。ジャンルごとに分類されており、人気度もあるので、同じようなものが複数あっても選びやすいだろう。どのデスクトップ環境用なのかも明示されているので、これも参考にするとよい。

なお、さらに詳細なパッケージを選択したい場合は [システム]-[システム管理]-[Synaptic パッケージ・マネージャ] を使用することとなる*5。

9.2.4 アップデート・マネージャ

今となっては特に Ubuntu 専用というわけではなく、Debian でも使用されているが、それがオープンソースのいいところということで特徴として挙げさせていただく。ここ以外の項目でも同様である。

その名のとおり、日々のアップデートを行うためのアプリケーションである。定期的にアップデートをチェックし、それを通知する (厳密に言えば、この役割を担うのは update-notifier というアプリケーションである)。通知アイコンをクリックすると起動するのがこのアップデート・マネージャという具合である。1つ特徴的なのは、日々のアップデートばかりではなく、Ubuntu そのものの最新バージョンがリリースされた際に通知し、アップグレードする機能があるということである。

9.2.5 メディア・コーデックの簡単インストール

オープンソース由来の OS の弱点の1つは、MP3 や AAC や MPEG 2 や WMA などのコーデックに対応しておらず、再生できないということである。Ubuntu はその点も考慮されており、再生できないファイルを再生した場合、自動的にウィザードが起動し、指示に従っていくとコーデックをインストールし、再生できるようになる。ここからインストールされるコーデックは multiverse というリポジトリに納められているので、どうしてもインストールしたくない場合などは、これを無効にするといいたいだろう。警告にもあるが、リスクはゼロというわけではない。

9.2.6 デスクトップ検索

Ubuntu では Tracker というデスクトップ検索エンジン*6を搭載しているが、8.04 からは標準でオフになってしまった。確かにパフォーマンスにあまり余裕がない PC を使用する際には、インデックス作成のために他のことができなくなってしまうなどの弊害もあるので、仕方がないことだろう。オンにする方法は、[システム]-[設定]-[検索とインデックス化] を開き、[インデックス化を有効にする] にチェックを入れるだけである。即座にインデックス作成を開始したい場合は、一度ログアウトしてログインするといふ。単純なテキストばかりではなく、Ogg Vorbis に埋め込まれた情報 (無論日本語で書かれている) も検索してくれた。

*5 Ubuntu ソフトウェアセンターはまだなかった

*6 これまたデスクトップ検索も流行っていた頃なのだ

9.2.7 画面の解像度

このツールは、8.04 になってから重要度を増したとってもいいだろう。X.Org が 7.3 になったことにより、ディスプレイやグラフィック・チップを自動的に認識し、xorg.conf を自力で書く場面が以前よりもグッと少なくなった*7。xorg.conf を実際に見てみると、あまりのシンプルさに驚く。せっかくシンプルになったのに、ここに解像度の設定を書くのははばかれる。そのような場合、これを起動して解像度を変更するといいたいだろう。より凝ったことをする場合も、xrandr コマンドを使用するようにし、xorg.conf を変更するようなことはなるべく少なくするようにされたい。

9.2.8 言語サポート

Ubuntu は言語ごとに必要なパッケージが分割されており、それを GUI からインストールするのが [言語サポート] である。より具体的には、インストール時ないし [言語サポート] で日本語を選択すると、language-support-ja と language-pack-ja をインストールする。language-support*8 はフォントや日本語（多言語）入力に必要なパッケージがインストールされるメタパッケージであり、language-pack は各アプリケーションの翻訳ファイル (.mo) が収録されているパッケージをインストールするメタパッケージである。

9.2.9 Launchpad

Ubuntu は Launchpad と統合されていると言っていいだろう。Launchpad は Canonical Ltd. が提供するバグトラッキングシステムであり、翻訳システムであり、ソフトウェア開発環境のホスティングサイトであり、ソフトウェア開発のアイデアを記録するところであり、Q&A サイトであり、他の機能もある。

ここで重要なのは翻訳である。今までのように .po ファイルを編集するのではなく、オンラインで翻訳を行うことができる。メニューの翻訳ばかりではなく、ドキュメントの翻訳も行う。各アプリケーションに [ヘルプ]-[このアプリケーションを翻訳する]（英語の場合もある）というメニューが追加されており*9、ここから Launchpad を開いて翻訳することができる。バグ報告も同様に、[問題点を報告] から気軽に行うことができる（無論英語でだが）*10。

9.2.10 ヘルプ

Ubuntu はヘルプも充実している。画面上部にある？ アイコン*11をクリックすると Ubuntu ヘルプセンターが起動する。残念ながら全部ではないが、ほとんどが翻訳されているので参考になるだろう。翻訳されていない箇所や誤訳を発見した場合は、ご協力いただけると幸いである。

*7 そうか、この頃はまだ xorg.conf があった頃か。今はプロプライエタリなドライバでもインストールしない限り存在すらしない

*8 language-support はずいぶん前になくなっている。12.04 の頃にはもうなかったのではないかな

*9 今はもうない

*10 これも今はない。apport で報告するようになったからだ

*11 これも今はない。思わず文字化けかと思ってしまった

Chap. 10

ゲストページ

同人誌といえばこれ！ 今回もありますゲストページ！

10.1 人と Ubuntu と私

芝田 静間

確か Ubuntu オフラインミーティング Tokyo9.04 だったと記憶している。Ubuntu を支える方々と初めてお会いしたのは。そして、それが私と Ubuntu との付き合いの始まりでもあった。

単純に圧倒された。当時の世間は世界金融危機の真っ只中であり、歴史の浅い IT 業界は真っ先に煽りを受け業界は低迷状態にあった。にもかかわらず、オフラインミーティングの会場内は熱いセミナーが繰り広げられ、目を輝かせた大人達が専門用語の投げ合いをしながら、食べ物を食い漁っていた。第一感想は「魔窟や……。」その異様な光景に恐怖を感じたことを今でもはっきりと覚えている。それ以後、何故か私は各地のイベントに出向き、Ubuntu ブースのお手伝いをするようになった。各地のイベント会場で出会う方々は、Ubuntu の関係者、非関係者を問わず、どの方も個性的であり、今でも圧倒されてしまう。しかし、実はそういった方々にお会いし、直に言葉を交わすのが私の楽しみの一つなのだ。イベントではネット上では希薄になりがちな現実を感じる事が出来る。生産者、利用者、協力者、主張の強い人、気弱な人、こだわりがある人、何でもいい人、etc、etc。色々な立場の人と顔を突き合わせて話を聞くのはとても面白い。

あと、各会場で「私は一般人ですから。」といった、謙遜という題目の茶番劇を観劇することが多々ある。後が怖いので控えめに言わせて貰うが、演者らは一般人という言葉の定義を再度確認し、真の一般人に謝罪すべきだと思う。話が逸れた。イベントのお手伝いを数年続けた私を感じたことは、結局のところ物言わぬバイナリの塊であっても、それを作っているのは人なのということ。それを支えている者も、利用する者もまた同じ。無機質な 0 と 1 の塊の奥底には沢山の人の思いがあり、言い分があり、衝突があり、血と涙の苦勞があり、そして、夢と希望が詰まっているのだ。……。「夢と希望」の一文を書いた時、どうにも綺麗事くさくて苦笑いが出てしまった。だが、その「夢と希望」が根っこなのではないのだろうか。少なくとも惰性で 10 年続けられるような代物ではない。

私は Ubuntu というより、それを取り巻く人々に魅せられてここまで来た。いつの間にか、自宅のデスクトップマシンの 9 割が Ubuntu になり、個人で作っているアプリケーションの開発環境は Anjuta や Qt Creator になった。市井の人達が使えるように、コードを Windows マシンに移して

うぶんちゅ！ まがじん ざっぱ〜ん♪ vol.2 体験版

2014年11月15日 v1.0.0 版発行

著 者 うぶんちゅ！ まがじん ざっぱ〜ん♪ の仲間たち

発行所 うぶんちゅ！ まがじん ざっぱ〜ん♪ 編集部

(C) 2014 Ubunchu! Magazine Zapppaaan